

議事録

令和 6 年度みのかも定住自立圏 首長懇談会	
日 時	令和 7 年 2 月 5 日（水）9 時 30 分～10 時 34 分
場 所	美濃加茂市生涯学習センター6 階
出席者	別紙のとおり
資 料	1.次第 2.資料 1_令和 6 年度みのかも定住自立圏首長懇談会 3.資料 2_第 4 次共生ビジョン策定にむけたデータ集 4.別紙_出席者名簿
審議事項	
・みのかも定住自立圏第 4 次共生ビジョン 将来像について ・みのかも定住自立圏第 4 次共生ビジョン 基本計画について	
決定事項	
・提案した将来像、基本計画をもってみのかも定住自立圏第 4 次共生ビジョンの策定を進める	
議事内容	
美濃加茂市 経営企画部長	9:30 皆様、本日はみのかも定住自立圏首長懇談会にご出席をいただき、ありがとうございます。 定刻となりましたので、懇談会を始めさせていただきます。 私、本日の進行を務めさせていただきます 美濃加茂市経営企画部長の石黒と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 はじめに、美濃加茂市長より挨拶を申し上げます。
美濃加茂市長	9:31 改めまして、おはようございます。 本日は大変お忙しい首長の皆様方に、天気の悪い中、お集まりいただきましたことを心から感謝申し上げますとともに、日ごろから定住自立圏をはじめ様々なまちづくりにお力をいただきますこと、この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。 今日で古田知事は退任ということですので、また新たに明日から県政がスタートするわけですが、県にも定住自立圏の取組みであったり、加茂地域のこれまでの経緯とこれからの未来については力を合わせてしっかり提言し、この地域がより力強く進んでいけるよう、我々も中心市としてしっかりと努めていきたいと思っておりますので引き続きよろしくお願いいたします。 また、先日は八百津町の方で穴水町の方々の防災についての講演会ありがとうございました。あのような形でそれぞれの市町村の職員が集まって情報を共有するということがこれからますます大事になってくると思います。 本日は第 4 次共生ビジョンに係る将来像ということで、この年度内そして次の新年度にしっかりと議論をしていく内容になるわけですが、これまでは国からの交付金をどう活用しようかという考え方はありましたが、今は予算というよりも、人員や事業をどう仕分けていくのかということにおそらくどの町村の皆様

	さんも頭を悩ませているところだと思います。この定住自立圏についても、予算がつくからという発想ではなく、改めて中心市とそれぞれの町村の皆さんにおいて、どういったところを一緒にやることで意味があるのかというところに特化していかなければいけないフェーズだと思っています。 ですので、それぞれのまちで持っていて無駄なんじゃないとか、非効率なんじゃないかというような部署をまとめて一緒に仕事をさせていただいたり、職員を共有して仕事を進めていくなど、合併していたら効率的にできていたことを、いかに合併せずに定住自立圏という枠組みの中で効率よくやっていくのかだと思います。うちの市役所の中でよく言っているのは、合併したまちを見せていただいて、合併したまちのデメリットは当然理解しながらも見ていく。合併して良かったところについてのポイントこそ、定住自立圏でできるところなんじゃないかと思います。どういったものが削減できる、どういったところに合理的な効果が発揮できたか、そういったところを皆様方とは第3次共生ビジョンまでの時間をかけて、改めて様々な情報であったりとかそれぞれの課題感を共有できましたし、職員同士、住民の方同士の協力関係も築くことができたと思いますので、また第4次共生ビジョンにあたっては、場合によっては痛みを伴うかもしれませんが、ゆくゆくはこの地域にとって必要であるような協力関係をより強固に築かせていただきたいと思います。それは中心市である美濃加茂市にとって、ひょっとしたら短期的なデメリットであっても、その地域にとって長期的なメリットであれば、率先してそういった仕事を担っていきたいという考えもありますので、ぜひともそういったことも含めて、長期的なビジョンに立って忌憚のない意見交換をさせていただければと思いますし、今日に限らず新年度含めてしっかりと事業化を進めていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
美濃加茂市 経営企画部長	9:34 ありがとうございました。 それでは、これより懇談に移らせていただきます。 本日の懇談会では、令和8年度より始まります「みのかも定住自立圏第4次共生ビジョン」の将来像及び基本計画についてご確認いただきたいと思います。 なお、本日に至るまで、各町村の定住担当課長様を含め、ご担当者の皆様と複数回の意見交換をさせていただきました。あらためて、ご協力をいただきましたことにお礼申し上げます。 それでは、資料に従いまして、定住自立圏推進室長の井戸より説明申し上げます。
美濃加茂市 定住自立圏推進室長	9:35 ～資料説明～
美濃加茂市 経営企画部長	9:50 ただいまご説明申し上げましたように、「みのかも定住自立圏第4次共生ビジョン」の将来像として、「住みつづけたい、住んでみたいまち」を掲げ、基本計画と

美濃加茂市長	して「生活機能の強化に係る政策分野」「結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」「圏域のマネジメント能力の強化に係る政策分野」の各分野において、「未来を担う人材の育成」「デジタル技術の活用」「資源の共同活用」の3つの視点をもとに事業を計画していくこととさせていただきたいと思います。 なお、ビジョン懇談会委員の選任につきましては、引き続き中心市である本市において調整を進めてまいります。 では、これより、首長の皆様においてご意見を交換いただきたいと思います。 9:51 それでは、ご意見をたまわりたいと思いますが、今説明ありましたとおり、第4次共生ビジョンの方向性は、現場の職員の皆さんにいろいろ検討していただきまして、地域の未来を担う若者の定住化と人材育成とデジタル、さらに資源の共同活用というのを入れさせていただきました。 資源というのはハード面だけでなくて人的な話や、自然とか環境とかそういったことも含めてという位置づけで共同活用していくことを積極的に進めていきたいなという考えを持っております。 振り返ると、第1次、第2次は民間も一緒になって定住に取り組むということで、民間の方々にも積極的に入っていただいたのですが、実際のところ民間の方々が定住自立圏にしっかりと踏み込んで企業の責任でやっていくことは難しいので、あくまで協力していく関係は築いていきたいと思いますが、資源の活用を含めて行政がリードしていかなければいけないというところは第4次共生ビジョンも変わらず大事にしていきたいと考えております。 ただし、民間の方々もしっかりと巻き込んでいかないと成り立たないものがありますので、こういったこともぜひご提案いただければ非常に期待できるのかなと思っております。 冒頭としては以上とさせていただきますが、これまでの第3次共生ビジョンの振り返りも含めて、第4次共生ビジョンで取り組んでいきたいことやその所感などございましたら順にお話をいただきまして、時間としては30分でご理解のほどよろしくお願いいたします。
坂祝町長	9:53 美濃加茂市の藤井市長も冒頭言われておりましたが、まず所感ですけれどもやはり町単独でできなかったことが定住自立圏の中でいろいろできたということは大変良かったかなというふうに思います。 ただ私はどちらかというと今までのことよりも先を見たいと思っておりますので、藤井市長と同様、持続可能な自治体をめざすという意味で、今までは自分たちの課題のところはしっかりと目を向けて、その他のところのそうでないところは、なかなか力が入ってこなかったという部分がどうしても否めないのかなと思います。 ただ、やはり美濃加茂市と加茂郡は強い絆で結ばれておりますので、今後この圏域でといったふうに考えるとさらに踏み込んでいかなければなかなか難しい問題なのかなというふうに考えております。

なので、冒頭で藤井市長がおっしゃったように職員の共有というのも私は一つの手なのかなと、各一人ずつ代表で集まっていたいただいて、例えば美濃加茂市が中心にやっていただいておりますけれども、美濃加茂市が仕切るというふうではなく、全員が平等の立場でお互いの意見を言い合うというところが今後は必要になってくるかなというふうにおもいます。

平成の合併で、なかなかいいところのお話を聞かない部分が多いですけれども、研究調査すれば必ずいいところがありますので、そこも取り入れて未来を見たビジョンで、だれのために何のためにやるのかというところを私は常に考えてやっていかなければならないと思います。職員の皆様は本当に一生懸命やっていたと思っていますが、ここに資料を持ってくるのが全てではないと思います。やはり、それを地域住民の方に反映させてようやくこれが成り立つと思っておりますので、その心意気を、加茂郡と美濃加茂市、圏域で一つにして一枚岩で立ち向かっていかなければいけないことだと思っております。

このまま取り組んでいきたいことについてもお話ししていいですか。

私はぜひ第4次共生ビジョンでは、坂祝町の思いになってしまうんですけれども、まずはやはり公共交通のことですよね。坂祝町は小さい町ですけれども、2つの公共交通事業を行ってまして、ほぎもんバスとデマンドタクシーをやっております。本当にそれが今必要なのかというお話をさせていただいている中で、結局バスはいろんなルートをまわるのですが利用者がどんどん減ってきています。ただ、やはり高齢者になってくるとそのバス停までもいけないということが起こりまして、デマンドタクシーを使ってドアツードアで行くという方が最近増えてきているという状況です。

そういった中で、本当にバスが必要なのかなと、なかなか財政も厳しいというところで、この主要なところにバスで行くというふうに考えると、スーパーであったり、駅であったり、病院というところで、圏域で考えていくことが必要なのかなというふうに思います。

ただ、そこで補う部分はデマンドタクシーを使うとか、そういったふうに補っていければ公共交通というのは賄えるのかなというふうに考えております。

そして、もう一つ、今回新たに参画させていただきました防災ですね。坂祝町は防災力が大変低いというふうに自負しております。実際に何か取り組んでいるかというふうに職員に聞いたところ、なかなかそこまで取り組めていないと、やはり他の業務と兼務しているため、なかなか力を注がないというのが実情ですという話を伺いました。ただ、いつ起こるか分からない有事の際にはやはり我々はそんなこと言ってられませんので、しっかり対応していかなければならない。ただ先ほども言ったように、町単独ではなかなか厳しいところもある。それもやはり情報共有も圏域で行っていかなければならない。坂祝町だけが有事が起こるわけではないので、皆さんも起こっている中で、やはり助け合い、支え合いが必要になってくる。そういった中で、我々は、もし有事の際に被害が少なかったら他の市町村を助けに行くだとか、そういうことも今後考えていかなければならないというふうに考えておりますので、坂祝町としては第4次共生ビジョンでは公共交通や防災に取り組んでいきたいと思っております。

美濃加茂市長	9:57 ありがとうございました。お話のトピックをいろいろいただきましたが、職員の共有という、私からの冒頭の挨拶で、これは言葉が独り歩きすると危ない部分もありますが、私たちも国から降ってくる交付金の読み解きとか法改正とか、ああいったものをすべての市町村でやっているというのは、我々だけでも正直つらいところがあるのに、町村の皆さんも本当に法令係をどこまで維持すればいいのかとか、後は選挙なんかの整備も大変だと思いますので、何かそういったところから共有できないかなと、これは私の所感ですけれども思っております。 後は、ご提案としては公共交通と防災ということでしたので、このあたりについてはしっかり検討していくということで、次に進めさせていただきます。ありがとうございました。
富加町長	9:58 この定住自立圏に関しまして、第3次共生ビジョンまで行ってきましたけれども、先ほど藤井市長もおっしゃっていたように、それぞれどうやって複数の自治体がつながっていくのかというのはやはり難しいことだと思っています。やはり、自分のところの利益というのが第一になってきますので、地域のメリットとして、地域全体を考えてくというのが必要なこととして、短期的ではなく長期的なビジョンをもって、自分のところだけでなくこの地域全体がよくなっていくということを見据えて行っていかなければならないと思っております。 今までそういったことで富加町としても、医療機関や公共交通機関に関して、なかなか単独では行けませんので、皆様と足並みをそろえながらご協力をさせていただいているということはあるがたく思っておりまして、これからもそういったところに力を入れていきたいと思っております。 早速、第4次共生ビジョンで取り組んでいきたいことですが、私も坂祝町長と同じく資源の共同活用ということで、職員の交流や、言葉は悪いかもしれませんが職員の貸し借り、職員を共通で活用していきたいなと思っております。 例えば、富加町も人口は微増ですが、子どもたちが増え、外国人の方たちも増えておりますので、イベントごとや学校教育のつながりの中で、外国人の方への通訳が必要になってくると、単独で通訳を抱えるというのはなかなか難しいので、通訳に限らず、そういった資格や能力を持った方を共通で雇ったりして利用できればいいのかなと思っていますし、また今は職員研修を役場の職員で行っていますけれども、そういったことをこども園や保育園、幼稚園の先生方にも広げて、富加町は1町で1園しかこども園がありませんので、こども園の先生方もやはりそういった交流というものを富加町内だけでなく、他の市町村の職員の先生方との交流、研修を一緒にしていけたらいいなと思っております。
美濃加茂市長	10:02 ありがとうございます。 医療というテーマを最初にいただきましたし、何より長期的なビジョンに立つというところにご賛同いただきまして本当にありがたいと思っております。 具体的な資源の共同活用の中で職員の貸し借りという言葉もありましたので、坂

川辺町長	祝町は外国人 700 人、人口の 1 割行かないくらいですかね、美濃加茂市は 10%、というところで確かにそういったところの対応は長年やってきていますので、ぜひ共有させていただきたいと思いますし、後は、富加町さんは今、子どもの数も増えている地域というところで、我々も大変ありがたいことに子どもが増えているエリアもあるんですけれども一方で子どもが激減しているエリアもあってですね。そのエリアは富加町さんと接しているとか、そういったことを考えると、保育施設の整備の在り方とかも共同で考えることが効率的なんじゃないかなとか、保育士さんも一度雇ってしまうと働き続けていただかなければいけないというところになかなか雇うことに消極的になっている現状が我々としてもあるので、何かそういった課題感をぜひ他の町村さんも含めて共有できると、もしかしたら保育士さんをわざわざ独自で採用しなくてもいいとかあるかもしれませんので、そのあたりちょっと踏み込んだ話をさせていただきましたがぜひとも研究させていただければなと思っております。ありがとうございます。 10:03 久しぶりの首長懇談会なので、これまでの経緯を振り返ってみたいと思いますが、川辺町は定住自立圏に加盟したのは平成 22 年 9 月 30 日ということで、当時は渡辺直由市長だったと思うんですが、協定を締結させていただいたということで、実はみのかも定住自立圏ができる前に、1 市 7 町村で合併をしましょうという協議がかなり熱を帯びておりました。当時、川合良樹市長が先頭に立って、協議会で話を進めていただいて、最後に美濃加茂市で住民投票をやろうということになって、その投票結果が合併に反対だという結果が出たんですけれども、私はいまだに覚えておりますのは、プラザちゅうたいで投票の開票が行われて、結果が出た後、当時の美濃加茂市長が加茂郡 7 町村の町村長が待機している場所へおいでになって、結果が出たと深々と頭を下げられた姿が未だに脳裏に焼き付いておりまして、その方とは、今の藤井市長が美濃加茂市合併 70 周年の広報で対談をされて、川合元市長 92 歳って書いてあったのでお元気だなと思いながら過去を振り返っておったわけでございます。 これまで、「住み続けたいまち住んでみたいまち」というキャッチフレーズがございますけれども、実は川辺町は住み続けたいまちで岐阜県 1 位を 2 年連続とっておりまして、ありがたい称号なんですけれども実際に住んでいる私たちがなんでやということで、実はこれ東海 4 県で、ある大手の住宅建設会社のアンケートに基づいてここ何年かやっているんですけれども、その東海 4 県でも川辺町は一昨年が 4 位、昨年が 5 位ということで、非常に素晴らしい賞をいただいたわけなんですけれども、住み続けたいまちということである新聞社では、コミュニティに対する思いやりの深い人が多いのではないかというコメントがございました。 それからもう一つは、災害が少ないという点が評価されているのではないかと思います。思い返してみると、昭和 58 年 9 月 28 日に大災害があって、美濃加茂市さんとか坂祝町さんとかが非常に甚大な被害を被ったということのを未だに覚えておりますけれども、私の町で大きな災害があったのは、飛騨川バス転落事件の昭和 43 年まで遡るんですね。その前は昭和 34 年の伊勢湾台ふうということを記憶しておりますので、私が覚えている限りではもう 50 年以上大きな災害はな
------	---

	いということで、それが一つ、住み続けたいまちという名誉ある名前をいただいたのかなというふうに思っております。 自然災害が多い、少ないというのは地理条件にものすごく影響するので、一朝一夕に自然災害をなくそうということはできないわけですが、その中でお互いに協力をしながら、もし大災害があったような時に、どうやって協力体制を取れるかということが非常に大事になってくるのかなと思っております。私どももいろんな部分で美濃加茂市さんにお力をお借りしているわけですが、災害についてもこれからもお互いの連携を密にしながら、もし大災害があったような場合、どうやって迅速にお互いのまちの安全を確保できるかということを進めてまいりたいなというふうに思っております。 平成 22 年から数えて今年がちょうど 15 年経つので、一つの区切れ目として、また新しいビジョン、第 4 次共生ビジョンに進んでいく一つのいいきっかけになるのかなというふうに期待しております。ありがとうございました。
美濃加茂市長	10:09 はい、ありがとうございます。改めて経緯の方をお話いただきまして、まさに長い年月をかけて今日まで来ているということと、後は住み続けたいまちという評価ですね。これは川辺町さん 1 位ということですし、この前、新聞に美濃加茂市はなぜ子どもの数が多いのかと載っていて、楽しみに開いてみたら、一つは外国人が多いだけと、もう一つは郡部からの流入と書いてあったので、美濃加茂市の政策が評価されたわけではなくてですね。加茂地域があって美濃加茂市が栄えているというお話が、まさにその通りだと思いますので、このあたり、今の災害の話であったり、地理的条件の優劣というところとあれですけど中心市は条件がいいと思いますので、このあたりを皆さんと共有していくという考え方は引き続きより良いものにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
七宗町長	10:10 定住自立圏について全然知らなかったのですが、町長になる前にも生涯学習のパソコン教室へ坂祝の方へパソコンを習いに行っておりまして、参考になって勉強させてもらいました。後は町長になってから防災の方に力を入れてきたんですが、防災カメラを 12 基取り付けたら、停電防止のために電線の本の伐採を 4 年間ずっと続けております。 また、最近になったら、能登の地震の関係で飲料水がないということで、消火用のタンク兼飲料水で 7 日間 1,700 人くらいの飲料水を確保することができるようになりました。 そんなふうで、僕は今までのことについてはこの 2 点くらいかなと思っておりますが、今後続けていただきたいのは、「24 時間電話相談窓口事業」そして、自分たちがやっていきたいことですが、防災はもちろん、外国の方に日本語をということでのぞみ教室、そして生涯学習、生涯学習はやはり年代的に僕らの年代の人が多い。そして休日診療もやはり地域的にも大事なかなと思っております。これらをこれからも進めていっていただきたいなと思います。

八百津町長	10:13 今、東京一極集中の中で地域間格差がすごく出ているということなんですよ。この前、兵庫県の町村会長に会ったときに言っていたのが、採用してもみんな姫路とかの採用試験へ行ってしまうと、10人採っても6人が出てしまうという話があったんですが、うちも一緒に、特に保育士さんが八百津町ではこのくらいでいいなと思っても、美濃加茂市と可児市へ出て行ってしまうと、それが現実なんですよ。同じく、保健師も集まらないということで非常に困っております。 後、富加町長がおっしゃった保育士の交流について、実は前やっていたが、保育士のやり取りで問題もあったようで、僕は一切かわっていなかったが、そういうこともあるのでやり方を考えなければいけない非常に難しい問題だと思いました。 それから、人口減少もこの町もずっとあるものですから、給食費をタダにするだとか、医療費をタダにするだとか、周りがやるとどうしても周りがやっているのでもうちもやれということはどうしても議員や町民から言われるので、そういうのは選挙の手法で使うのではなくて共有して、事前にやるというようなことをアナウンスしていただけるといいなというのを思っております。 この前、23日に石破総理に会ったのですが、それぞれの地域をしっかりと応援しますと、国もやはり町村でいろいろ考えてやりなさいというようなことをおっしゃったということなんですよ。だから、それぞれの市町村がそれぞれのことを考えてやっていかなくちゃいけないということを思っています。 ただ、住んでいる人が減っていきますけれども、住んでいる人が頑張ってくれてくれる、所得をあげてくれるそういうまちにしたいなというふうに思っています。
美濃加茂市長	10:16 ありがとうございます。時間の方は30分までの意見交換ということで事務局の方から来ましたので、もう少しゆとりを持っていただければと思います。 先ほど七宗町さんの方から各事業について触れていただきましたし、後は八百津町さんの方からは職員採用の難しさ等についていただきました。 我々としては、美濃加茂市の中でも考えているのは、大下という職員が地域活性化起業人で富士通からきておりまして、今年2年目ですけれども、正直うちの市だったら絶対採用できません。もう一人、大國護というマネージャーもいるんですけれども、うちのデジタルを一手に引き受けていただいている。 ただし、地域活性化起業人が使えたのは、定住自立圏の中心市だったから使うことができたんですよ。給料の半分は交付金なので定住自立圏に期待しているところは政府としてもあると思います。 逆に地域おこし協力隊は美濃加茂市はとれないので、地域おこし協力隊のフィールドとしてうちを使っていただいてもいいとかですね、起業人を定住自立圏としてもっと活用していただくということもそうですし、先ほどの採用についても我々は採用できたと思ったら名古屋市や岐阜市に取られているので、同じような課題感もあると思います。それぞれ組織文化が違うので一概には難しいところもあるかもしれないが、ぜひ人材の共有についても知恵を絞って、お互い共有し合えるような制度を作れたらいいのかなと思います。

白川町長

10:19

今まで、定住自立圏を第3次共生ビジョンまでやってきましたが、どうしても住民の方に分かりにくいというか、そんなことやっとなんやというような部分があるのと、はじめの1次共生ビジョン、第2次共生ビジョンの辺りから思うと、経費的に定住自立圏のおかげで助かっている部分が少なくなっているんで、行政側としても住民側としても、いまいちはっきりしない、もやっとした状態のものになっているのではないかなというのが私が受けるイメージです。

あまり細かい事業をたくさんとってしまうと、またぼやけていくので、今回3本に絞られたということで、そのくらいの本数がいいのかなと思います。事業についても、あまりそれぞれの事業の中で細かいものをいくつか作るよりは、重点的に大きなものをいくつかチョイスしていただいてそれを進めていただいた方がいいのかなというイメージを持っています。

それから、今人口の話がどこでも出ていまして、うちも人口が減ってきておって、年間に10人しか生まれていないんです。かなり減ってきている中で、いろんなことをやっておりますけれども、どれだけ何をやったとしてもただの競争になるだけで、それがあから子どもを産むだとか、ここへ移ってくるということにはなかなかならないですから、うちは子どもが少なければ少ないなりに、少ない子どもだからこそできることをやっていきたいという私の思いがあって、極端な話が、選ぶのではなく全員を国際交流の関係でどこかに出したりとか、そういったことができる状態の人数になってきているので、その辺は逆手にとりたいなという思いがあります。

特に、高校へ進学するとともに、どうしても美濃加茂方面へ出てくることが多いものですから、JRで来まして、古井の駅ですとかそこらへんで降りて歩いて行ける子はいいですけど、そこからまたさらに遠いところに行く方も多いものですから、その辺の手立てがなにかできないかなということも前から話ししておったので、そこは引き続きお願いしたいなと思います。

それから、2、3日前に会った先生のお話で、住民自体の人口は減っているけれども、私の町から30キロ以内のところに例えば子どもであつたりとかがお見えになれば、それはそれで十分成り立つのではないかなということで、確かに白川町からは川辺町さんだったり、美濃加茂市さんの方へほとんどの方が出て行って住んでおられますので、実際にうちの町民からは出て行ってはいますが、十分に来れる距離には住んでおりますので、それを考えると、うちの町のことをずっと想っているながら、こちらの方に住んでおられる方も多いので、それを大事にしたいなと思うことがあります。

その辺に引き続いて、消防団の話なんですけど、消防団の定員が400人ありまして、さすがに400人は無理になってきましてちょっと減らしますけれども、それでも団員さんは町内ではない住所の団員がかなり増えておりまして、白川町内の事業者さんですと消防団員の活動には十分理解もあるためいいんですけれども、こちらの方にお勤めになっている方はやはり仕事の絡みとかで消防団活動とかが十分にできない方もあると思います。ほとんど圏域に勤めている方が大半ですので、そういった方に対する消防団員のご理解というか、そういったものも圏域あ

美濃加茂市長	わせて進めていただきたいと思いますし、今はこういう形で自分が住んでいるところではないところの消防団活動をしている団員さんもいるということも十分PR するような施策も防災の中でやっていただくとありがたいと思うので、それだけお願いしたいと思います。 10:23 ありがとうございます。大変多岐に渡るご意見いただきました。先ほど八百津町さんの方から人という点に触れていただきましたけれども、さらに掘り下げていただくという視点もあったかと思います。 私の所感としても、我々は名古屋、東京に人が流れていくけれども、そことの繋がりが切れてしまうのはもったいないということで、いろいろと検討しているところですが、まさに今のお話のとおりで、美濃加茂の地域に移り住んでくださる方々はいらっしゃるのですが、今の制度上、税金という面については美濃加茂市が恩恵を受けるという少し心苦しい点もあるのですが、今のコミュニティやその繋がりをいかに維持していくかというのは我々にとっても非常に大事だと思います。なかなか簡単な話ではないと思うのですが、この地域でこれが実現できると、他の地域も同じような課題を抱えていると思いますので、ぜひ出身者と今住んでいる方々との繋がり等も踏み込んで検討したいと思いますので、ぜひ研究させていただきたいと思います。 その中に消防団という話があったり、消防団というと企業さんとの連携もあると思いますので、企業を巻き込んでいけたらなということもあります。 後は、政策のアナウンスについても、八百津町さんから話がありましたけれども、競い合ってしまうと、我々美濃加茂市も正直心苦しいところがあって、周りの町村さんが始められると、住民は八百津町がやっているのに富加町がやっているのに美濃加茂市長は何を考えているんだという投書をいただくのですが、確かにそこで我々がまたレベルを合わせると、町村の皆さんが新たな手を打たないといけないということで、これは悪循環なんじゃないかということもありますので、全体のバランスを見たいという政策を進めていくということも踏み込んで、首長間でやらせていただけるとありがたいと思いますので、これも首長間の協議の中で引き続き進めていけるよう持ち帰らせていただきます。
東白川村長	10:25 まず、今までの定住自立圏関係の所感というところなんですけれども、白川町さんがおっしゃったとおり、今一つ住民の皆さん方には見えていないなということと、職員間のいろんな情報交換だとかソフト事業を一緒にやることによって理解が深まってきたし、地域のそれぞれの課題をみんなが理解できたというところには大きな効果があったかなと思いますけれど、今一つ、我々のような小さな自治体で言うと、もうちょっと期待するところがあったのにといいところがあるんですね。 先ほどからお話があったように、合併ができなかった地域が定住自立圏で中心市を中心にして、なんとかそれぞれの自治体が生き残っていけるために総務省が特交措置をしながら、それでまちづくり、地域づくりをやってください、という

のが基本的な考え方であったと思うんです。

そのために今度第4次共生ビジョンに入るときに何が必要かというところを、これから真剣に考えていかなければならないと思っております。

村の状況を少し説明させていただくと、昨日ちょうど公会計の一般会計から特別会計を含めた財政指数を勉強させていただいたんですけど、どの市町村も同じかもしれませんが、いわゆる企業会計で言うと、営業収支は当然赤字ですよね。いわゆる税金とかそういったもので行政サービス、行政コスト、全然カバーできないので、企業で言ったら事業外収支、交付税あるいは補助金、こういったもので何とか黒字にしているという状況を勉強したんですけども、これを改善するのはなかなか大変な話で、やはり過疎地域、中山間地域、こういったところの人口減少は進んでくるので、どうしても交付税措置とか補助金を確保しておかないといけないなと思いました。

今日、提出いただいた資料の最後のページ、70番のスライドですけど、人口1000人あたり職員数について、東白川村は突出して36人以上になっています。これは、診療所という医療機関を持っていることもあるんですけど、なかなか厳しい話で、今年度もおそらく一般会計から1億円ぐらい入れないと、診療所の特別会計を維持できないような状況があります。私が令和6年度の頭からしつこく職員の方に言っているのは、人口が減っていくのはいろいろやってもなかなか厳しいので、事業の効率化と職員数を減らしていく方向でいかなきゃいけないという話をずっとしています。

令和7年度はちょうど案を作っていますが、大幅な機構改革をやって、大体2つの課を1つにしていって、そこに管理職を2人置いて、仕事のシェアをやってみんながそれで助け合ってやっていかないと、このままの職員数を維持していけないと、現実的に募集してもこないということもあって、だんだん年齢も上がってきますし、そういったことを今始めておりますが、なかなかハードルが高いわけですね。

そういったことを考えていくのと、子どもたちとこの間、ふるさと学習の発表会に行きましたら、東白川村と、東京都の千代田区や足立区と比べて勉強してきて、東白川村にはコンビニがないからコンビニが欲しいとか、それは中学生の意見でかわいい話なんですけど、その中で一つあったのは、今、白川町さんと一緒に公共交通をやっていて、なんとかそれぞれ地域内での交通は確保しているんですけど、美濃加茂の高校へ行って帰ってくるのが、改善はされたが不便だと、あるいは買い物に行きたくてもバスを乗り継いで高山線に乗ってというのは非常にづらいというような意見がありました。これはPTAの会合でもよく出る話です。この第4次共生ビジョンの中で取り組んでいただきたいものもいくつかあるんですけど、我々が白川町さんと一緒にやっている公共交通も、白川町さんはおそらく1億円以上、うちが4000万円ぐらい、つちのこバスというバスを走らせるのにお金をかけてます。ここを特別交付税が措置されるなら、例えば車両1台でも美濃加茂市の中部国際だとか他の医療機関へ通うためのバスを走らせておりますので、そういう現実には村民に見えるような、定住自立圏でこれを整備できたよというような話があると、非常にみんな喜ぶかなと思っております。

もう一つは公共交通もそうですし、防災もそうなんですけど、各事業を市町村が

美濃加茂市長	いろいろやっている中で、共同でやるべき仕事をもう一回洗い直してほしいです。白川町さんに大変お世話になってますけど、ことばの教室っていうのがあって、これは言語障がい、発達障がいですね、東白川村が来年度は5人かな、白川町さんが十何人かな、この費用がですね約1200万円くらいかかる、これを割り勘しているわけですよ。これはつらいことで、人数で割ると一人年間60万円くらいかけている。こういう事業がいくつかあるので、もう一回事務方で洗い直していただいて、広域でやっていけるものはぜひ定住自立圏で取り組んでいただきたいと思います。これは子どもさんたちのために非常に必要な事業なんです。 関連してもう一つありますのは、小学校でいわゆる発達障がいというか、普通学級のクラスの中で1人か2人なかなか授業についていけない子は支援員がいるんですね。県が、教育委員会が、なかなか加配してくれないので、どうしても村単でやるみたいな形にしないと授業が進まない。そういった事業も、もっと定住自立圏の中でやっていけることはあるんじゃないのかなというふうに思っております。 後は、確かに人材のことは先ほどは話があった通りで、DX化もやりたいんですけど、人材をなかなかそこへ回せないのが、企業から来られた方々を派遣していただいて、まずは勉強からというようなところをやっていただけると、DX化は当然進めないと職員も減らしていけないので、そのところは令和7年度の事業の中で事業化をぜひお願いしたいなと思います。 10:33 多岐に渡りましてありがとうございます。 まさに、人材育成の中にも教育という視点は十分入るという想定で、教育の柱、人材育成の柱を立てていますので、今のバスというものについても具体的に検討できればと思いますし、支援員についても、私も昨年度ですけれども本当に支援員の付きが悪すぎて、県の教育長の方に直談判にも行っていろいろ話を聞くと、特にこの圏域は講師が足りないということを悩まれていましたので、こういったところを我々力を合わせて、声をあげてくるところも大事だと思いますので、このあたり、定住の方でもしっかりと網羅していきたいと思います。 その他にも、様々なところで町民、村民、市民の皆さんにも理解を広げていくというような事業をちゃんと立ち上げていくということも意識しながら進めていきたいと思います。 引き続き、皆様方には定住自立圏をしっかりとご理解いただき活用していただけるように事務局をさせていただいております美濃加茂市の方も頑張っていきたいなと思いますので、どうか今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。 10:34
--------	---

以上

令和6年度みのかも定住自立圏 首長懇談会
出席者名簿

日時：令和7年2月5日（水）
9時30分～10時20分
場所：美濃加茂市生涯学習センター6階

	所 属	職 名	氏 名（敬称略）
1	美濃加茂市	市長	ふじい ひろと 藤井 浩人
2	坂祝町	町長	いとう たかひろ 伊藤 敬宏
3	富加町	町長	わたなべ けいた 渡邊 圭太
4	川辺町	町長	さとう みつひろ 佐藤 光宏
5	七宗町	町長	かのう よしあき 加納 福明
6	八百津町	町長	かねこ まさのり 金子 政則
7	白川町	町長	さえき まさたか 佐伯 正貴
8	東白川村	村長	いまい としろう 今井 俊郎